

城北まちづくり通信

2024/10/17

59号

城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

「袋川・狐川水質浄化対策検討会」から（報告）

「令和6年度 袋川・狐川水質浄化対策検討会」（令和6年10月10日）が、流域内の関係行政機関（国・県・市）や学識経験者、地元自治会（美保・明徳・富桑・醇風・城北・浜坂・久松）・団体（狐川を美しくする会・鳥取環境生態研究会・袋川をはぐむ会）が参加して開催されました。以下、報告します。

【袋川と狐川の課題】

「袋川」は、千代川の支流で、鳥取市街地を流れる“袋川(かつての旧袋川)”と、鳥取市大杵から分かれて千代橋付近で千代川に合流する“新袋川”の2つの河道があります。袋川は、江戸時代に池田光政によって掘削されたもので、鳥取城の防御や城下町の整備に役立ちました。新袋川は、昭和9年に鳥取市大杵から千代橋付近までに掘削されたもので、鳥取市街地を洪水から守る役割を果たしました。

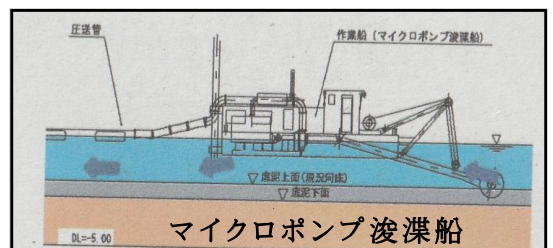
ところが、流路を変更したことにより、袋川下流の自己流量が少なくなったことと、都市化によって生活排水や温泉排水の流入が多くなったことで、水環境は著しく悪化しました。また、下流域は潮の満ち引きによって千代川河口から海水が逆流して、水底の土砂やヘドロ等が堆積しやすい状況となり、悪臭や浮遊物の除去が課題となっていました。

一方、狐川は、鳥取駅南で山白川から分岐し、城北地区内を貫く全長5.3kmの1級河川です。もともとは農業用排水路でしたが、田園地帯の都市化が進行し、雨水の行く場を失ったことで、水害（内水氾濫）が発生するようになりました。その後、昭和44年から改修が進められ、平成元年に現在の狐川の姿に生まれ変わり、「狐川排水機場」と「浜坂遊水池」を一体利用することで、50年に一度の大雨でも、住宅の床上浸水を防ぐことができるようになりました。しかし、勾配が緩いことに起因して、流れが悪く、袋川からの逆流や生活雑排水の流入などで悪臭や植物プランクトンの増殖などの水質悪化が課題となっていました。

【報告内容】

◎狐川の流量を増やす改修工事（山白川分水地点・トミタ電機裏分水地点）が完了し、昨年より治水・利水を考慮した増水0.2m³/sの運用が開始されています。モニタリングの結果、水質の改善傾向が認められ、今後も引き続き、水量の維持や浸水被害防止のための巡回監視を継続するという事です。

◎千代川と袋川の合流部（浜坂）から順に、環境悪化の原因である川底に堆積した土砂やヘドロを、マイクロポンプ浚渫船を利用して昨年11月から吸引しています。現在、600m地点まで完了し、モニタリングの結果、水質の改善傾向が認められるという事です。工期は令和10年度末まで続き、湯所橋付近までの浚渫を目標にしているという事です。



環境改善の科学的根拠、工事に伴う騒音等の周辺住民への配慮、生態系への配慮等を、図解資料を交えて詳しく説明していただきました。

袋川・狐川の水質浄化の実施にあたっては、今後も、国・県・市と地域住民が連携しながら、「袋川・狐川水質浄化対策検討会」で検討し、協働で水質浄化に向けた取り組みを進めます。城北地区住民の皆さんのご意見は、城北地区公民館（城北まちづくり協議会事務局 ☎0857-26-3997）までお寄せください。城北まちづくり協議会 会長 鈴木伝男